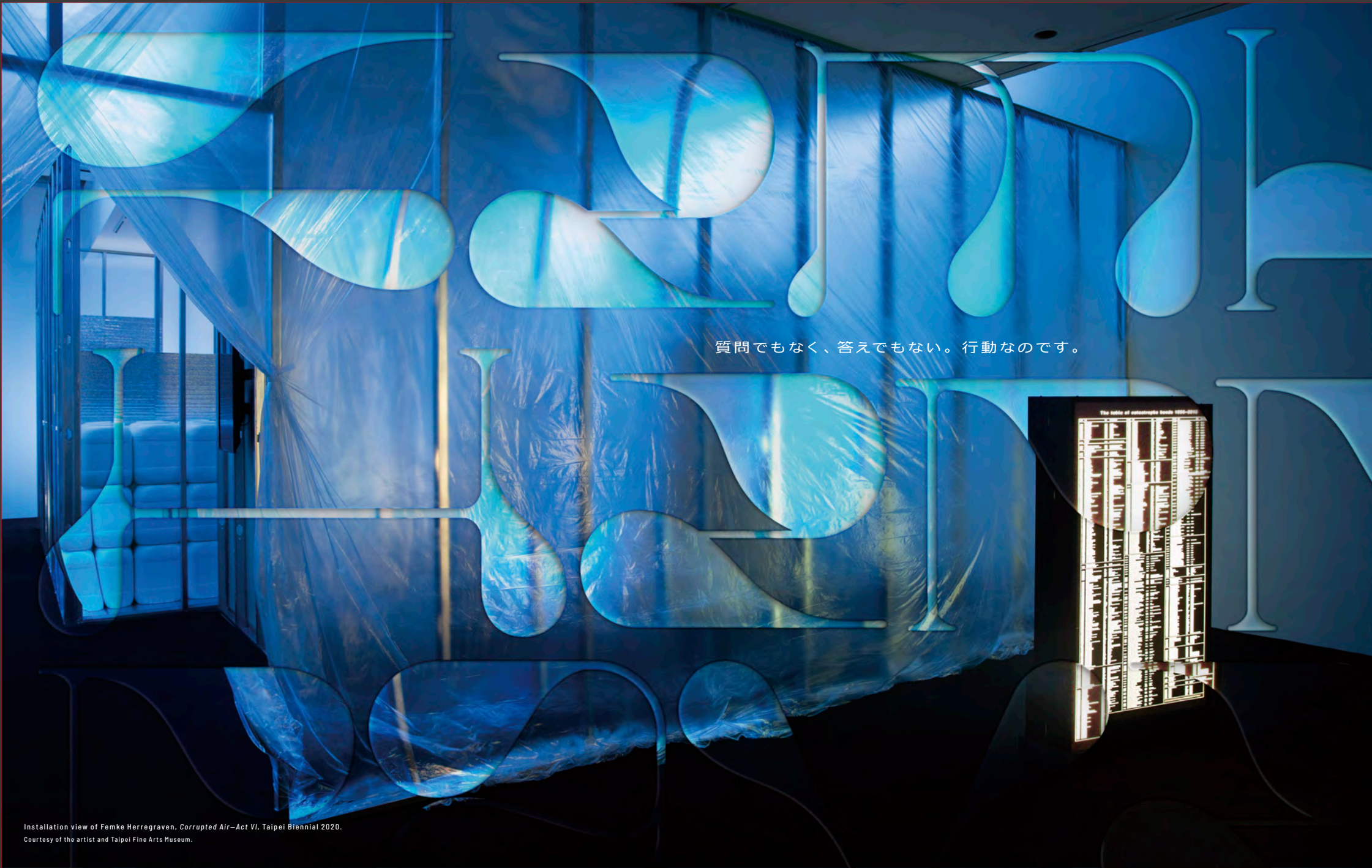
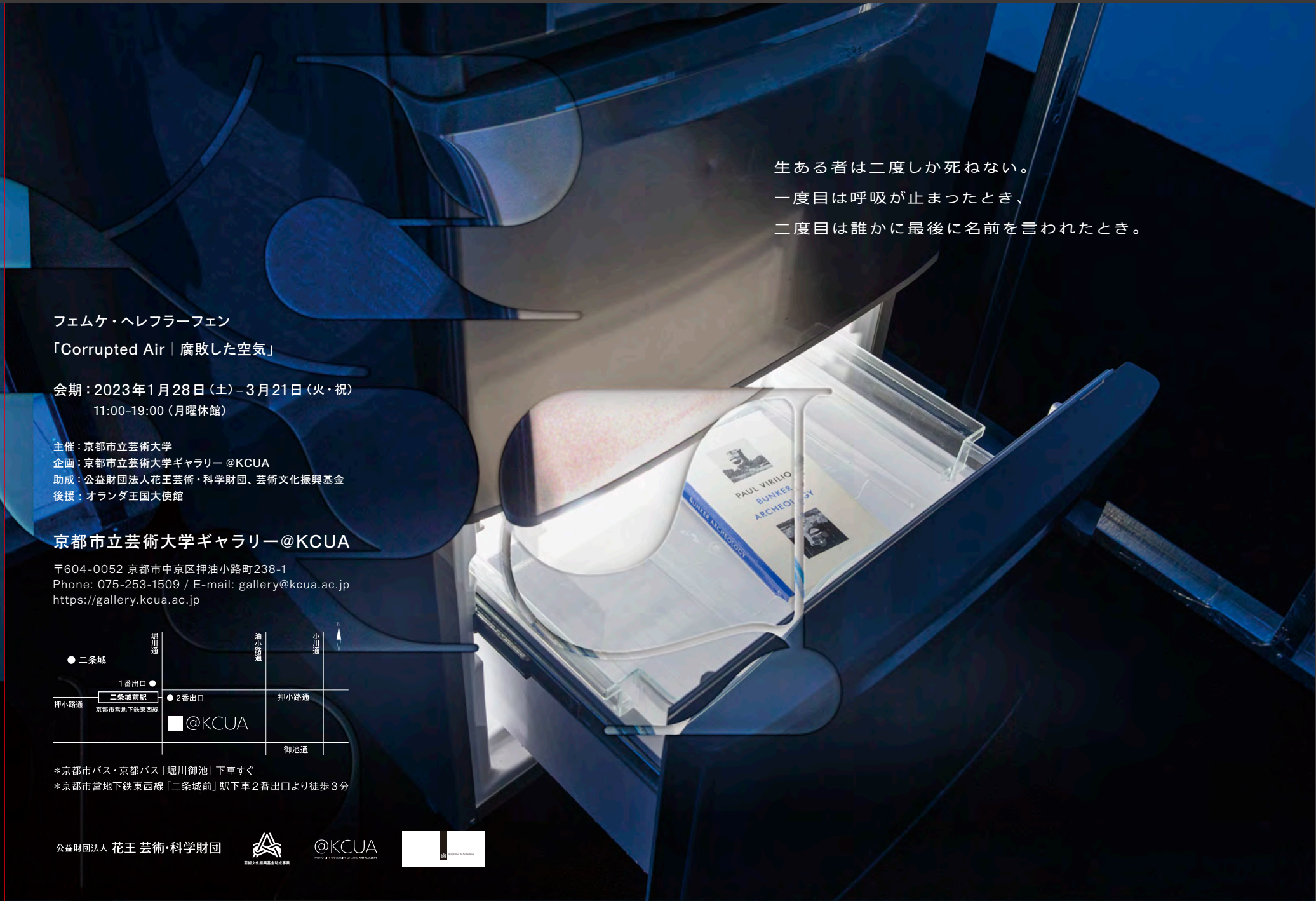




Installation view of Femke Herregraven, *Corrupted Air—Act VI*, Taipei Biennial 2020.
Courtesy of the artist and Taipei Fine Arts Museum.



生ある者は二度しか死ねない。
一度目は呼吸が止まったとき、
二度目は誰かに最後に名前を言われたとき。

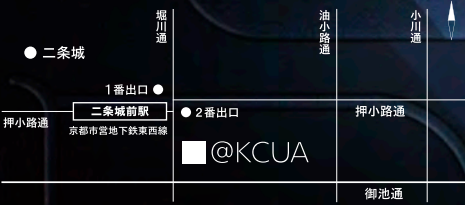
フェムケ・ヘレフラーフェン
「Corrupted Air | 腐敗した空気」

会期：2023年1月28日（土）～3月21日（火・祝）
11:00-19:00（月曜休館）

主催：京都市立芸術大学
企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
助成：公益財団法人花王芸術・科学財団、芸術文化振興基金
後援：オランダ王国大使館

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

〒604-0052 京都市中京区押小路町238-1
Phone: 075-253-1509 / E-mail: gallery@kcuu.ac.jp
https://gallery.kcuu.ac.jp

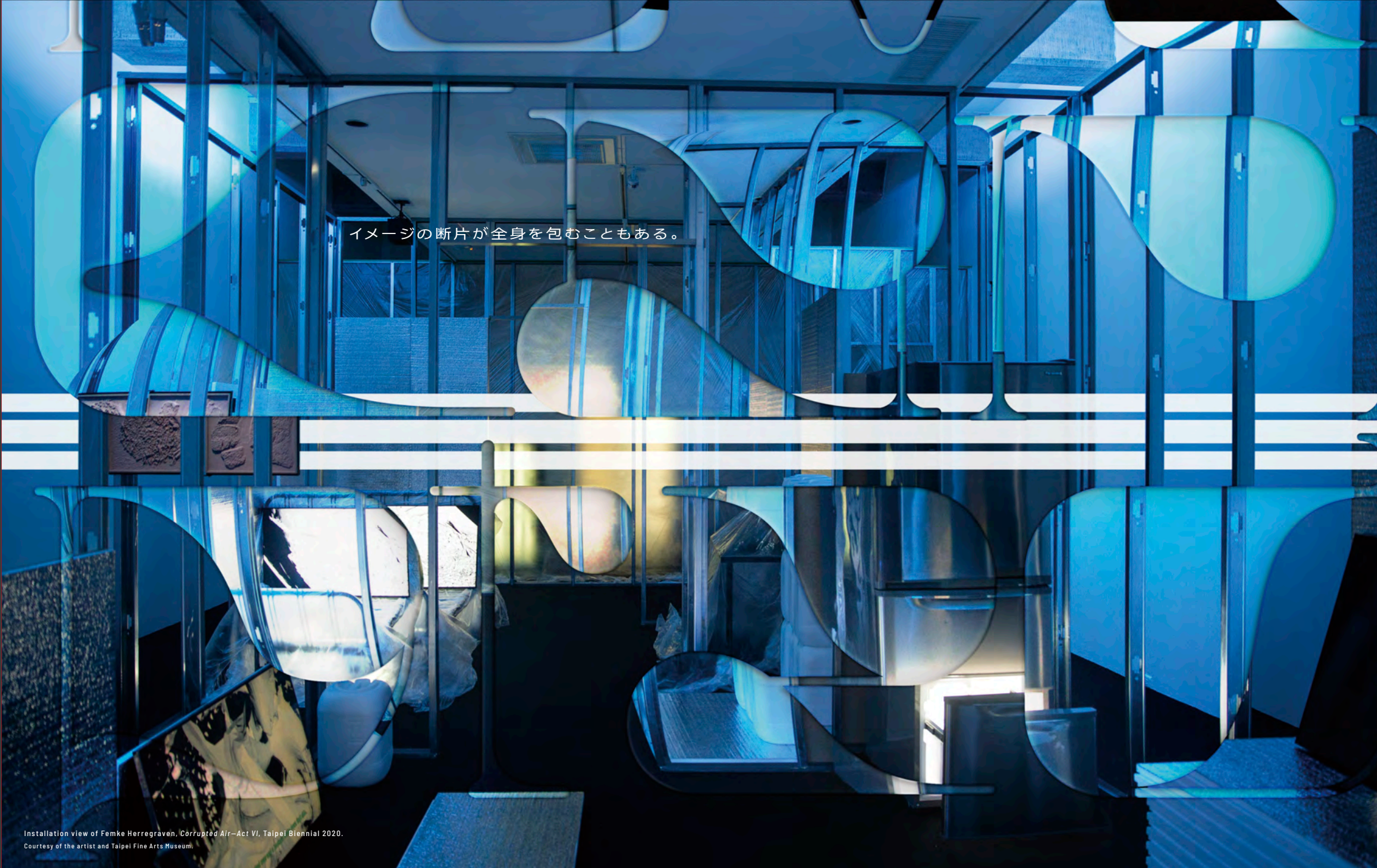


*京都市バス・京都バス「堀川御池」下車すぐ
*京都市営地下鉄東西線「二条城前」駅下車2番出口より徒歩3分

公益財団法人 花王 芸術・科学財団



@KCUA



Installation view of Femke Herregraven, *Corrupted Air—Act VI*, Taipei Biennial 2020.
Courtesy of the artist and Taipei Fine Arts Museum.



Femke Herregraven フェムケ・ヘレフラーフェン
Corrupted Air | 腐敗した空気
2023年1月28日（土）→3月21日（火・祝）11:00—19:00（月曜休館）
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts



存在と不在が同時に存在する。

Introduction

フェムケ・ヘレフラーフェン（1982年ナイメーヘン（オランダ）生まれ、アムステルダム在住）は、現代の金融技術やインフラに関する抽象的なデータから、それらが持つ意味や生態学的影響などについて検証し、ジャンル横断的で多様な表現方法を用いて独自のイメージを生み出す気鋭のアーティストです。本展は、国際的に高く評価された《Corrupted Air—Act VI（腐敗した空気——第6幕）》（2019）を中心に、彼女の活動を日本で初めて紹介する貴重な機会となります。同作品は、大災害に投機する金融商品であるカタストロフィ・ボンド*についての調査研究から過去の生態系の大惨事を証言し、すでに絶滅してしまった生物のデジタルモデルの3体が、人間によって引き起こされようとしている「6度目の大絶滅」について議論するという演劇的なインスタレーションです。パンデミック以前に作られた作品ではありますが、目に見えない空気中のウイルスに怯えながら日々を過ごす「コロナ禍」を経験し、未だその呪縛から解放されていない私たちにとって、この「Corrupted Air（腐敗した空気）」というタイトルは、さらなる問いを投げかけているかのように感じられます。また、バッテリー素材のリチウムの高騰を出発点として、技術産業の原材料、金融投機、エネルギーにまつわる幅広い問題を探索するアーティスト・ラン・プロジェクト「On-Trade-Off」の一環で制作された《A Prelude to: When The Dust Unsettles（予兆：さめやらぬほとぼり）》（2022-23）や、現在進行中のプロジェクトの構想資料などもあわせて紹介します。

*カタストロフィ・ボンド（CAT ボンド/大災害債）
CAT（Catastrophe=カタストロフィの略）ボンドは、一般に同程度の格付けの発行会社が発行する普通社債よりも高い利率が支払われる代わりに、自然災害（台風・洪水・地震など）が発生した場合には、投資家の償還元本が減少する仕組みの債券のこと。（参考文献：野村証券 証券用語解説集 https://www.nomura.co.jp/terms/japan/ki/cat_bond.html 最終閲覧日：2022年11月28日）

Installation view of the solo exhibition, Femke Herregraven: Corrupted Air, Future Gallery, Berlin, 2019.
Photo by Andrea Rossetti

世界は常に存在し、無のない場所はなかった。

Femke Herregraven

フェムケ・ヘレフラーフェン
1982年ナイメーヘン（オランダ）生まれ、アムステルダム在住。抽象的な価値体系が歴史学や個人の生活、また生態学的に与える影響に焦点を当て、金融技術やインフラによって切り取られた物質的基盤、地理、価値体系に関する研究をもとに作品制作を行う。ストーリー性の高いミクストメディア・インスタレーションは、オブジェクト、彫刻、サウンドなどから構成される。



近年は、経済の「金融化（Financialization）」を「カタストロフィ」と捉え、言語、声、呼吸器系を用いて、社会的、生物学的、技術的な生態系の中に存在するこれらのマネタイズされた投機的な「カタストロフィ」を検証している。とりわけ、大災害に投機する金融商品、いわゆる「カタストロフィ・ボンド（CAT ボンド）」を長年にわたって研究中、サンドバーグ・インスティテュート（アムステルダム）のCreator Doctus（実証ベテスの博士）課程在籍中（2020-2024）、ArtEZ芸術大学（アルシヘム）とヘリット・リートフェルト・アカデミー（アムステルダム）で教鞭をとる。アムステルダムのオランダ国立芸術アカデミー（ライクスアカデミー）レジデント（2017-2018）。2016年には、パナマ文書についてオランダの調査ジャーナリストと共同研究を実施。2019年、ローマ賞（Prix de Rome）にノミネートされる。「On-Trade-Off」（リチウムをめぐる新エネルギー神話に関するアーティスト主導のプロジェクト）メンバー。各国の主要な美術館、国際展などに多数出展。 <http://femkeherregraven.net>

Installation view of the solo exhibition, Femke Herregraven: Corrupted Air, Future Gallery, Berlin, 2019.
Photo by Andrea Rossetti

Corrupted Air — Act VI

《Corrupted Air—Act VI（腐敗した空気——第6幕）》（2019）

タイトルにある「Act VI」は、「6度目の大絶滅（The Sixth Extinction）」を意味しています。過去の5度の大絶滅とは異なり、人間の行為が引き金となった変化によるものです。実際に、現在の世界はまさにその只中にあるという説もあります。本作は、その「6度目の大絶滅」に備えて、「The Last Man（最後の人）」が生き延びるために作った地下壕を舞台とするインスタレーションです。予想される災害や大惨事に備えて超富裕層が建てた「サバイバル・バンカー」をイメージした空間のなかで、すでに「最後の大惨事」による種の絶滅を経験し、デジタルモデルによって「生命」を取り戻した三葉虫（カンブリア紀から古生代の終期であるペルム紀まで繁栄したのち、絶滅した節足動物）、エビオルニス（アフリカのマダガスカル島に17世紀頃まで生息していたとされる鳥類）、トカゲ（ミミナシオトカゲ科の一種）の3体が、まだこの場に姿を現さない地下壕の主である「最後の人」を待ち続けています。そして彼らは、来るべき「6度目の大絶滅」をめぐる、断片的な会話を繰り返します。ヘレフラーフェンにとって、作品は完成によってその世界を閉じてしまうのではなく、いつでもひっくり返される可能性を秘めたものであるといえます。このインスタレーション内で交わされる対話は、起こらないかもしれない「イベント」のための永遠のリハーサルとなるのでしょうか。それとも……。



Installation view of Femke Herregraven: Corrupted Air—Act VI, Japan Pavilion 2020
Courtesy of the artist and Tropé Paris 11st Museum

終わりが来たとき、あなたはその準備ができていないだろう。

Installation view of Femke Herregraven: Corrupted Air—Act VI, Japan Pavilion 2020
Courtesy of the artist and Tropé Paris 11st Museum